

第1期 小郡寺子屋「志学舎」報告書【第12講座】

開催日 2022年11月19日（土）

● 時 間 9:30～16:30

● 場 所 丸東産業株式会社（小郡市干潟892番地1）
小郡市生涯学習センター（小郡市大板井）

● 参加者

■第1期生16名（午後から出席：1名）

■木村 貴志 塾長 / 森 就子（事務局） / 井上 和樹（事務局） / 西山 茂代（事務局）

■丸東産業株式会社 取締役・総務本部長 徳丸 秀則 様

財務・経理グループグループリーダー 上久保 慶 様 / 国際事業部 春野 愛 様

開発室 グループリーダー 土井 貴 様 / 開発室 グループリーダー 久本 嘉秋 様



● 内 容 第4回企業訪問

9:30～9:40 出欠確認、少年教育10原則朗唱、企業訪問事前学習

10:00～12:00 企業訪問（丸東産業株式会社）

12:20～13:10 昼食（お弁当）

13:10～15:10 企業訪問振り返り、レポート作成

15:20～16:30 新聞記事から学ぶ、論語素読

■少年教育10原則朗唱、企業訪問事前学習（動画視聴）

<塾長より>10原則はもっと元気よく朗唱しよう

■企業訪問

○総務本部長 徳丸 様よりあいさつ

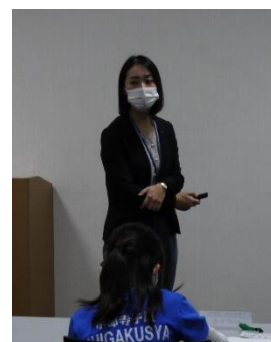
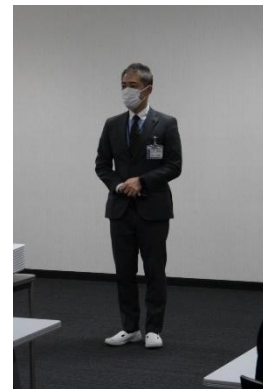
・本年度、小郡市は市制施行50周年で、丸東産業は今見ていただいたVTRの作成を支援させていただきました。この会社は主に袋を作っている会社ですが、この後の説明や体験で詳しく説明します。小郡市内にこのような会社があることを知らなかったと思うので、今日はぜひこの会社のことを知って帰ってほしいと思います。

○会社概要の説明（徳丸 様）

・会社の設立、資本金、年商、従業員数などの説明。
・事業内容は、主に外袋を製造してる。他にコンテナや充填する機械、包装する機械を製造・販売している。
・「機能包材の丸東」ということで、まだまだやれることがたくさんある（例えば環境への配慮など）と考えています。

○国際事業部の説明（春野 様）

・丸東産業は、本社が小郡市にあり、香港・タイに支店がある。主にパッケージを輸出しており、輸出先はアジア、オーストラリア、アメリカ合衆国となっている。
・丸東産業には、液体が漏れないようにパッケージを作る技術があり、その技術により海外への輸出ができています。
・その他、包装する機械やすしロボット（シャリを作る機械）などを輸出している。



○知ってほしい丸東産業の3つのこと（土井 様）

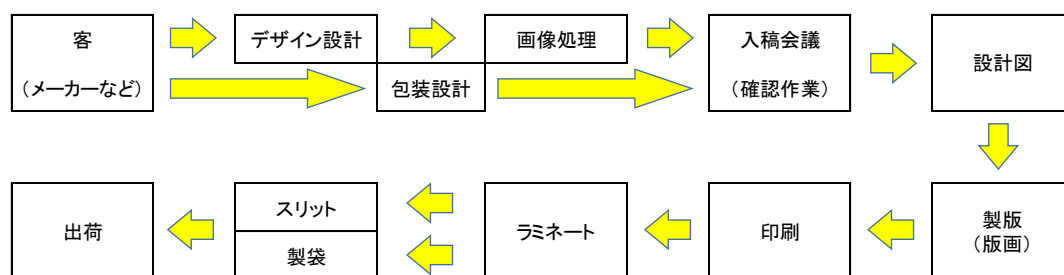
①丸東産業の役割

- ・商品の流れは「原料⇒生産⇒流通⇒消費⇒廃棄物」
- ・製造・販売する人はBusiness（ビジネス）、消費者（買う人）はCustomerといい、この両者間の取引を「BtoC」という。
- ・丸東産業は、主に外袋を製造している会社で、取引しているのは他の商品（ポテトチップスなどの食べ物）を製造していて、外袋が必要な企業。この場合は、どちらもBusinessとなり、丸東産業は「BtoB」の会社になる。



②ラミネート

- ・原料は石油。蒸留してできるナフサが原料。石油産出量の約3%がナフサとなる。
- ・ラミネートとは「貼り合わせる」という意味。
- ・外袋は一枚に見えるが、実はフィルムを何枚もラミネートしたもの。
- ・構造は、基材（印刷面）・中間層（内容物を守る）・シーラント（熱で貼りつく部分）の3層。
- ・包装の三機能
 - Ⅰ. 取扱いの利便性（製品を取扱いやすくする）
 - Ⅱ. 内容物の保護（内容物を空気・湿気・ゴミ・虫等から守る）
 - Ⅲ. 情報の提供（消費期限、原材料名などを正確に表示）
- ・袋ができるまで



※ラミネートは、押出ラミネートとドライラミネートがある。

※スリットは、ロール状態で切り分けること。

※出荷前に様々な検査を行い、製品が客のイメージ通りであるか、客が求める性能を有しているかを確認し、内容物を守ることが使命。

◎丸東産業はデザインから出荷までを一貫して行い、各過程において商品イメージの共有を図っている。

③丸東産業の特技

- ・外袋を製造するメーカーはたくさんあり、包装の三機能を必ず持っている。
⇒そんな中から選ばれるために・・・「機能包材の丸東」としての特技を持っている。
【丸東産業の特技】・切れやすい ・開封しやすい ・環境にやさしい
- ・環境にやさしい

☆外袋は最終的にごみになる

- 燃やされると大気汚染
- 埋め立てると土壌汚染
- マイクロプラスチックとなり海洋汚染

☆原料となる石油はあと50年しかもたないといわれている。

そこで、バイオマス製品・・・原料：生物由来の資源（サトウキビ・トウモロコシ・トウゴマなど）

※非可食部を使う（可食部は食料として使用）

⇒生物由来の資源は再生可能な上、有限である石油使用の抑制につながる ⇒ サステナブル

⇒また、生物由来の資源は、二酸化炭素を吸収（光合成）してくれる ⇒ カーボンニュートラル

◎丸東産業は（ひと）（To）（ちきゅう）を繋いでいく

■工場見学（春野 様、久本 様）

○製版

- ・ 製版は、ダイヤモンドを使って彫っている。
- ・ 写真等はダイヤモンドで彫刻しているが、文字はレーザーで行う。
- ・ 製版は色毎に作成する。この工場で2万5千本保管している。
- ・ 彫刻とレーザーのどちらもできるのは、九州ではここだけ。日本でも2、3社。
- ・ 色の重なりは9色まで可能。濃い色から着色していく。



○ラミネート

- ・ フィルムの種類は色々あるが、それはフィルムによって得意な分野があるため

シーラート・・・引っ張ると伸びる。貼り合わせることが可能だが、印刷・光等の反射はできない。

ナイロン・・・光等の反射や貼り合わせることにはできないが、印刷することが可能。

アルミ・・・張り合わせや印刷は不可。ただし、光等を反射することができる。もろい。

⇒単体では外袋として使えないため、ラミネートを行う。

- ・ ラミネートの方法は2つある。

ドライラミネート・・・接着剤を使って貼り合わせる。レトルト食品などの強度が必要な外袋に使う。

押出ラミネート・・・樹脂を300℃で溶かして貼り合わせる。ドライに比べて速く、安くできるが、貼り合わせる力がドライラミネートほどないため、強度が必要なものには向かない。



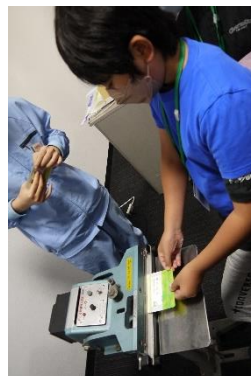
○加工

- ・ スリット・・・印刷・ラミネートされた包装紙をロール状でカットしたもの
- ・ 製袋・・・袋になった状態で納品するもの

◎包装の見学をしたが、これを人の手で作るとなるととても大変なことを認識してほしい。

○袋詰め体験活動

- ・ 様々な形をした食料を袋詰めにする作業、名刺を袋に入れる作業、商品を入れた袋を熱で圧着する作業を体験しました。
- ・ 熱で圧着する作業は、上下がずれたり、しっかりと圧着できなかったりと、想像以上に難しい作業であると同時に、商品の見た目にとても影響することが分かりました。
- ・ 環境を大切にするには、作る人の責任もあるが、使う人の責任もあることを認識しました。（ごみはちゃんと捨てることの重要性）



■企業訪問振り返り、レポート作成

○企業訪問振り返り

- ・しっかりレポートを書くため、塾生一人ひとりが取ったメモを基に、企業訪問を振り返る。

<塾長より>

- ・いろいろな事が身についてきた（靴を並べるなど）が、あいさつの声が小さい。
- ・後ろから見ていて、ノートがあまりとれていない塾生がいた。ノートが取れていないとレポートは書くことができない。
- ・従業員の方が皆さんへあいさつをしていたがちゃんと応えていたか？声が小さいと聞こえない。
- ・一人で企業を訪問したときの行動をきちんと考えることが大事。これから磨いていって欲しい。
- ・レポートは聴いている時が勝負。聴く⇒メモを取る⇒レポート。聴いてメモを取る時に、自分自身が「ここが大事だ」と思わないといけない。（学校のように先生がここが大事とは誰も言ってくれない。）

【塾生感想】

- ・話を聞き流していたので、あまりメモが取れていなかった。
- ・内容をみんなで振り返ってみると、自分が大事だと思ったことはかけていたが、結構抜けていた。
- ・振り返ってみるとあまりかけていなかった。
- ・言葉ではなく、図でまとめてメモしていた。（塾長から、つなぎ言葉も大切とのアドバイス）
- ・周りがあまり書いていないので、書いていなかった。（塾生として一番まずい態度）

○ロジックツリー作成、レポート作成

- ・企業訪問の振り返りを踏まえて、各自ロジックツリーを作成し、それを基にレポートを書きあげる。



■新聞記事から学ぶ、論語素読

○小郡市市制施行50周年記念式典のVTR視聴

⇒服部 福岡県知事が、あいさつの中で「志学舎」に言及

<塾長より>

- ・市制50周年記念式典のあいさつで触れるくらい、この「志学舎」は注目されている。なので、責任感を持って行動してほしい。誇り、使命感を持って取り組んでほしいと思う。

【塾生感想】

- ・期待されていることを感じたので、頑張っていこうと思う。
- ・知事のスピーチは何も見ず、固有名詞もきちんと言っていた。
- ・知事のスピーチに出てきてびっくりした。
- ・こんなところも「志学舎」と関係があるんだと思った。

○新聞記事「やっぱり変だよ、日本の教育2」（日本経済新聞 2022年11月2日掲載）

「やっぱり変だよ、日本の教育3」（日本経済新聞 2022年11月3日掲載）

- ・教員免許がなくても教壇に立てる「特別免許」の授与件数は、2020年度で237件。一般の教員免許（約18万7千件）の0.1%しかない。
- ・オランダは免許がない人が一定期間、有償の訓練を積むと教員になれる制度を導入している。一方日本では、2000年に制度化された民間人校長制度があるが、民間出身の公立学校長は64人（18年4月時点）で、ピークの15年（109人）から42%も減っている。
- ・世界はオンライン入試導入に前向きで、180以上の国・地域から志願者を集める米ミネルバ大学はオンライン形式の入試を採用。大学を目指す全米の高校生らが受けるSAT（大学進学適性試験）は23年からデジタルに移行。

・一方の日本では、EduLab（エデュラボ）が提供するオンライン試験監督システムの採用大学が、22年度は前年度の半分に減った。

<塾長より>

・民間校長はなかなかたがらない。オンライン入試は世界では拡大しているが、日本では縮小。どうなるか。オンラインはお金をかけてする必要がある。このまま日本にこもっていて大丈夫か。

・公平を大事にするのは、極めて日本的な考え。その視点も大事だが、世界で戦えるのか。

【塾生感想】

・日本では能力を伸ばそうとする人が少ない。

・日本では公平を大事にすることが印象に残った。

・民間人校長にビックリしたが、民間の方が先生になれる制度があることにさらに驚いた。

○日本経済新聞掲載記事（2022年9月20日 創造性教育の香港キュリオ）

・香港を拠点に創造性を高めることを主眼とした学習塾を展開するCURI00（キュリオ）が九州で開校を加速している。

・授業はオンライン形式で、世界中のキュリオの学生と学ぶ。アントレプレナーシップ（起業家精神）や創造性などを高めることを目指しており、授業では英語を使ったコミュニケーションやプログラミング、様々な課題についてグループで議論したりプレゼンテーションをしたりする。

・ブラックストーンCEO談

「社会が変化する中で、将来生きるために必要なスキルは変わっていくが、既存の学校教育で学べるものと間にギャップがあり、それを埋めるようなカリキュラムを子どもたちに提供する」

「日本の子は他の国に比べて英語力は低く、創造性も少し低い。ただ、一生懸命学ぶ姿勢があり、伸びしろというのを非常に感じている。」

○日本経済新聞掲載記事（2022年9月24日 工作・プログラミングの場 各地に）

・理系・文系の枠を超えて問題を解決する力を養う「STEAM教育」が叫ばれるなか、学校を飛び出して新たな体験ができる空間が人気を集めている。

・カリキュラムが決まっている学校では自由にできる時間は限られるが、何を作ってもいい空間があれば、子どもが主体的に創造力を発揮することができる。（運営法人代表 談）

・AIなどの技術革新による社会変化で、STEAM教育の重要性は高まっているが、学校現場はまだ手探り状態であり、地域の体験型拠点は子どもの創造性を育むための受け皿となりうる。

<塾長より>

・学ぶ場所はいろいろとあるが、その情報をどうやって手に入れるかが大切。

・変化に対応できるものが生き残る。

【塾生感想】

・プレゼンテーションは学校であまりやらないので、頑張ってみたい。

・工作やプログラミングで創造力が広がって、どんなことができるかわかるから、学校でも工作などをするのがいいと思う。

・学校では体験できないし、興味があるので行ってみたいと思った。

・プログラミングばかりが叫ばれているけど、自分は文章も楽しいと思う。

○論語素読

<塾長より>

・論語にある言葉は深く、今につながっていることがたくさんある。

